

	徳島大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:555 第3年次:40） 工学部【夜間】（第1年次:50） 大学院先端技術科学教育部（M:328 D:43）
沿革	大正11（1922）年 徳島高等工業学校創立 昭和19（1944）年 徳島工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制徳島大学工学部設置 昭和39（1964）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成3（1991）年 大学院工学研究科博士前期・後期課程設置 平成18（2006）年 大学院先端技術科学教育部設置
設置目的等	<p>大正11年、徳島大学工学部の母体の一つである徳島高等工業学校は、徳島県の産業の発展、科学的文化の進展を目的として設置され、昭和19年に徳島工業専門学校に改称された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、徳島工業専門学校は、徳島大学工学部として承継された。</p> <p>昭和39年、工業立県を推進している徳島県において、より高度の教育研究機関の設置を望む強い声を受けて、徳島大学に学部における一般的並びに専門的教育の基礎の上に、学術の理論及び応用を研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与するとともに精深な学識能力を持つ人材を育成することを目的に、工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成3年、地域産業の振興に貢献できる創造性豊かな人材を育成することを目的に、博士後期課程が設置された。</p> <p>平成18年、現代社会から要求されている研究者・技術者としての総合的な視野や倫理観を有する人材の育成、国・地方の活力を生む産業科学技術の益々の発展と環境の創造・創生を図ることを目的に、先端技術科学教育部が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>徳島大学においては、「自主と自律の精神に基づき、真理の探究と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する」ことを使命とし、教育・研究・社会貢献に取り組んできたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p>

- 産業界の中核的な人材として自律的な応用力と創造力を有し、サステナブル社会の構築に向けて環境問題などの現代社会に生じている問題の分析力や解決能力を備えた技術者・研究者の育成の理念のもと、創基以来3万5千人に上る有為な技術者を我が国に輩出してきた伝統と実績を生かし、環境、材料、バイオ、エネルギー、情報分野の高度な技術者の育成の役割及び高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。
- 徳島県をはじめとする周辺地域の工学教育の機会均等の役割を果たす。
- 創造性を育む創成学習、ダブルディグリーを通じた国際教育連携、経営センスを養う長期インターンシップなどの特色ある教育を進めてきた実績や、国際的通用性のある認定プログラムを積極的に推進してきた実績を生かし、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を身につけることができる学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- LEDライフィノベーションなどの材料開発研究分野、画像診断・治療技術の創生などの医工連携研究分野及び枯渇資源・バイオマスなどの環境資源循環研究分野における高い研究実績を生かし、工学の諸分野の研究を推進する。
- 教員一人当たりの受託研究・共同研究の受け入れの高い実績を生かし、今後とも我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。また、徳島県の6次産業の推進、防災・危機管理教育による防災士等の養成、地域振興関係委員会への参画など、地域へ貢献してきたこれまでの実績を生かし、地域産業の振興と安全・安心な地域社会の形成に寄与する。
- 学部夜間主コース及び大学院への社会人受け入れ促進や、産業人材育成講座の開設、先端工学機器の技術者向け講習会等の積極的展開などを通じ、地域の産業界を担う人材の育成に取り組む。
- 16年間に及ぶ「科学体験フェスティバルin徳島」をはじめとする小・中・高校生の理科普及活動を通じて、地域における工学分野の理解及び親しみを深める役割を果たす。